



2026年3月期 第3四半期決算報告

2026年2月5日

株式会社ニコン

- 社長の徳成です。本日はお忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございます。

1. 経営状況報告
2. 2026年3月期 第3四半期決算報告
3. 2026年3月期 通期見通し

Nikon |

- 私からは、経営状況についてご報告します。

経営状況



中期経営計画（2022/4～2026/3）の進捗状況	戦略	・映像事業のシネマカメラへの展開、精機事業の新型ArF液浸露光装置・後工程向けデジタル露光装置の開発等、将来の成長のための施策は着実に進捗
	経営基盤	・内部管理体制・生産拠点整備、IT/DX投資等、長期成長のための基盤強化策に着手 ・政策保有株式および遊休不動産売却などバランス・シートの効率的運用推進
	財務計数	・「売上収益7,000億円」目標は4年の中計期間中複数年度で達成したが、収益性関連目標の「営業利益率10%以上」「ROE8%以上」は未達に終わる見込み
デジタルマニュファクチャリング事業における減損損失の計上	・①金属3Dプリンター市場の将来成長率低下、②中国メーカーの台頭を含む競争環境激化等を踏まえ、デジタルマニュファクチャリング事業全体の将来計画を見直し ・SLM社買収に伴うのれん・無形資産を中心に、906億円の減損損失をQ3決算で計上 ・SLM社のビジネスは拡大基調にあり、米国・欧州等の防衛・宇宙市場を中心に中長期的な成長を目指す	
経営責任の明確化（役員報酬の減額）	・2026年3月期の最終損失および配当予想の引き下げ等に関する経営責任を明確にするため、会長CEOおよび社長COOの2026年3月期に係る賞与および業績連動型株式報酬を全額不支給とする	
主要株主の状況	・エシロールルックスオティカ社14.2%保有(1月26日現在)。最大20%保有のクリアランス取得済	

5月公表予定の次期中期経営計画(2026年4月～2031年3月)では、「短期業績の回復」と「長期成長のための投資」の両立を目指す

- 当社はこの3月末で現行の中期経営計画を終了し、4月から2030年を目指した新たな計画をスタートさせる予定ですが、現中計の進捗状況をご説明します。
- まず、戦略面では、中計に掲げた施策を着実に推進しつつあります。
- 具体的には、映像事業では米国RED社を買収することでシネマカメラへの展開を図り、昨年10月にはRED社の技術を融合した初のデジタルシネマカメラZRを発売しました。
- 精機事業では、半導体製造の前工程向けに新型ArF液浸露光装置を開発中であり、後工程向けのデジタル露光装置は受注を開始しました。
- 経営基盤については、リスク管理など内部管理体制の強化に努めるとともに、レンズの生産能力の拡大のため新棟建設に着手するなど、長期成長のための基盤強化に注力しています。
- 一方、財務計数については、株主の皆様のご期待に沿えない状況にあり、まことに申し訳なく感じております。
- 2021年3月期に4,500億円台まで落ち込んでいた売上収益については7,000億円への回復を目指に掲げて業容拡大に努め、一定の成果を挙げることができましたが、収益性関連目標である「営業利益率10%以上」「ROE8%以上」はいずれも大幅未達に終わる見込みです。
- 特に、中計最終年度である今期は、デジタルマニュファクチャリング事業における減損損失の計上を主因に、最終損益が850億円程度の赤字となる見込みです。

経営状況



中期経営計画（2022/4～2026/3）の進捗状況	戦略	・映像事業のシネマカメラへの展開、精機事業の新型ArF液浸露光装置・後工程向けデジタル露光装置の開発等、将来の成長のための施策は着実に進捗
	経営基盤	・内部管理体制・生産拠点整備、IT/DX投資等、長期成長のための基盤強化策に着手 ・政策保有株式および遊休不動産売却などバランス・シートの効率的運用推進
	財務計数	・「売上収益7,000億円」目標は4年の中計期間中複数年度で達成したが、収益性関連目標の「営業利益率10%以上」「ROE8%以上」は未達に終わる見込み
デジタルマニュファクチャリング事業における減損損失の計上		・①金属3Dプリンター市場の将来成長率低下、②中国メーカーの台頭を含む競争環境激化等を踏まえ、デジタルマニュファクチャリング事業全体の将来計画を見直し ・SLM社買収に伴うのれん・無形資産を中心に、906億円の減損損失をQ3決算で計上 ・SLM社のビジネスは拡大基調にあり、米国・欧州等の防衛・宇宙市場を中心に中長期的な成長を目指す
経営責任の明確化（役員報酬の減額）		・2026年3月期の最終損失および配当予想の引き下げ等に関する経営責任を明確にするため、会長CEOおよび社長COOの2026年3月期に係る賞与および業績連動型株式報酬を全額不支給とする
主要株主の状況		・エシロールルックスオティカ社14.2%保有(1月26日現在)。最大20%保有のクリアランス取得済

5月公表予定の次期中期経営計画(2026年4月～2031年3月)では、「短期業績の回復」と「長期成長のための投資」の両立を目指す

- デジタルマニュファクチャリング事業は、金属3Dプリンターの製造・販売をドイツに本社を置く子会社ニコンSLMソリューションズを中心に行っておりますが、市場の将来成長率の低下や中国メーカーの台頭を含む競争環境激化等を踏まえ、今般、将来計画を見直した結果、SLM社買収に伴うのれん・無形資産を中心に約900億円の減損損失を計上しました。
- SLM社のビジネス自体は米国や欧州等の防衛・宇宙市場を中心に拡大基調にあります。今回の減損を踏まえ、構造改革等も行った上で、中長期的な成長を目指してまいります。
- 2026年3月期の最終損益が赤字になることに伴い、誠に遺憾ながら、配当予想を一株あたり50円から40円に引き下げさせていただきます。
- こうした業績不振に関する経営責任を明確にするため、会長CEOの馬立および社長COOである私、徳成の2026年3月期に係る賞与および業績連動型株式報酬を全額不支給といたします。
- 弊社と致しましては、今年度でバランスシートの健全化にメドを付け、4月から始まる次期中期経営計画では、「短期業績の回復」と「長期成長のための投資」の両立を目指していく方針です。
- 引き続き、株主・投資家の皆さまのご理解・ご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

1. 経営状況報告
2. 2026年3月期 第3四半期決算報告
3. 2026年3月期 通期見通し

Nikon |

- CFOの松本です。
- 私からは、2026年3月期第3四半期の決算ならびに通期の見通しについてご説明申し上げます。

2026年3月期 Q3：ポイント

Q3累計実績
(前年比)

- 売上収益 : **4,839億円** (前年比 ▲287億円)
- 営業利益 : **▲1,036億円** (前年比 ▲1,117億円)
- 当期利益* : **▲872億円** (前年比 ▲934億円)

- 売上収益は、コンポーネント事業以外の事業セグメントでの販売減少や為替影響により減収
- 営業利益は、半導体装置事業・インダストリアルソリューションズ事業の構造改革効果や精機事業での事業譲渡益があった一方、デジタルマニュファクチャリング事業における非金融資産の減損損失(906億円)、映像事業の製品ミックス変化による下振れにより大幅な営業損失に転じた

Q3実績
(前年比)

- 売上収益 : **1,710億円** (前年比 ▲89億円)
- 営業利益 : **▲988億円** (前年比 ▲1,011億円)
- 当期利益* : **▲925億円** (前年比 ▲958億円)

- 売上収益は、為替効果があった一方、主に精機事業における販売減少により減収
- 営業利益は、減収による減益に加え、デジタルマニュファクチャリング事業における非金融資産の減損損失、映像事業でのプロモーション費用増加による下振れ、ヘルスケア事業での引当金増額(14億円)などにより大幅な営業損失に転じた

注：本資料で使用している数値は、億円未満は切り捨て
* 親会社の所有者に帰属する四半期利益

Nikon |

- 資料の上半分に第3四半期累計、下半分に第3四半期単独のポイントをお示しています。
- 第3四半期までの累計、4月から12月の9か月間では、売上収益は4,839億円、営業利益は1,036億円の赤字、そして当期利益は872億円の赤字となりました。
- まず、売上収益ですが、コンポーネント事業を除く各事業セグメントでの販売減少や為替影響により、前年比287億円の減収となりました。
- 営業利益は、半導体装置事業とインダストリアルソリューションズ事業での構造改革効果や精機事業での事業譲渡益があった一方、デジタルマニュファクチャリング事業で906億円の減損損失を計上したことにより、映像事業の下振れにより、前年比1,117億円の大幅減益となりました。
- なお、当期損失額は、連結子会社の解散及び清算決議に伴う繰延税金資産の計上により、営業損失額よりも縮小しました。
- 資料の下半分、第3四半期単独、10-12月の実績も、累計同様、前年比減収減益となりました。
- デジタルマニュファクチャリング事業の減損損失や映像事業の下振れに加え、ヘルスケア事業で引当金を増額したことなどにより、大幅な営業損失となりました。

2026年3月期 Q3累計：財務ハイライト

単位：億円	25年3月期 Q3累計実績	26年3月期 Q3累計実績	前年比	
			増減額	増減率
売上収益	5,126	4,839	▲287	▲5.6%
営業利益	81	▲1,036	▲1,117	-
営業利益率	1.6%	▲21.4%	▲23.0P	-
税引前利益	108	▲1,018	▲1,126	-
税引前利益率	2.1%	▲21.0%	▲23.1P	-
当期利益*	62	▲872	▲934	-
当期利益率	1.2%	▲18.0%	▲19.2P	-
FCF	▲114	▲428	▲314	-
為替：USドル	153円	149円	売上収益への影響	
ユーロ	165円	172円	▲21	
			営業利益への影響	
			▲120	

Q3累計における営業利益への関税影響は▲51億円

* 親会社の所有者に帰属する四半期利益

Nikon |

- スライド6は、第3四半期までの累計の計数です。
- 右下、為替影響が売上収益より営業利益の方が大きくなっているのは、デジタルマニュファクチャリング事業の減損損失によるものです。

2026年3月期 Q3累計：セグメント別業績

単位：億円	25年3月期 Q3累計実績		26年3月期 Q3累計実績		前年比	
					増減額	増減率
映像事業	売上収益	2,356	2,290		▲66	▲2.8%
	営業利益	438	209		▲229	▲52.2%
	営業利益率	18.6%	9.1%		▲9.5P	
精機事業	売上収益	1,249	1,046		▲203	▲16.3%
	営業利益	▲6	6		+12	-
	営業利益率	▲0.6%	0.6%		+1.2P	
ヘルスケア事業	売上収益	815	790		▲25	▲3.1%
	営業利益	21	▲6		▲27	-
	営業利益率	2.7%	▲0.9%		▲3.6P	
コンポーネント事業	売上収益	490	518		+28	+5.7%
	営業利益	36	66		+30	+82.0%
	営業利益率	7.4%	12.8%		+5.4P	
デジタルマニュファクチャリング事業	売上収益	182	166		▲16	▲8.8%
	営業利益	▲102	▲1,034		▲932	-
	営業利益率	▲55.8%	▲620.7%		▲564.9P	
その他（含、全社費用等）	売上収益	31	27		▲4	▲13.1%
	営業利益	▲306	▲277		+29	-
	営業利益率					
連結	売上収益	5,126	4,839		▲287	▲5.6%
	営業利益	81	▲1,036		▲1,117	-
	営業利益率	1.6%	▲21.4%		▲23.0P	

Nikon |

- スライド7は、セグメント別の第3四半期累計の業績をお示しています。
- 黄色い枠のなか、各セグメントの上段が売上収益、下段が営業利益です。詳細は、セグメントごとにご説明します。

2026年3月期 Q3：映像事業

単位：億円	25年3月期		26年3月期		前年比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
売上収益	839	2,356	840	2,290	+1	▲66
営業利益	150	438	58	209	▲92	▲229
営業利益率	17.9%	18.6%	6.9%	9.1%	▲11.0P	▲9.5P
レンズ交換式 デジタルカメラ	26万台	67万台	26万台	74万台	±0万台	+7万台
交換レンズ	37万本	102万本	36万本	103万本	▲1万本	+1万本

• **前年比（Q3累計）**：RED社の技術を融合した初のデジタルシネマカメラ「ZR」やボリュームゾーンの「Z5II」・「Z50II」などを中心に販売台数は増加したものの、製品ミックスの変化および競争環境の激化に伴うプロモーション費用の増加による平均販売単価の下落に加え、為替や関税影響などもあり減収減益

Nikon |

- まず、映像事業です。
- 売上収益は前年比66億円減収の2,290億円、営業利益は229億円減益の209億円となりました。
- RED社の技術を融合した初のデジタルシネマカメラ「ZR」やボリュームゾーンの「Z5II（ゼット ファイブ ツー）」・「Z50II（ゼット ゴジュウツー）」などを中心に、レンズ交換式デジタルカメラの販売台数は前年比7万台増の74万台、交換レンズは前年比1万本増の103万本となりました。
- 販売台数は増加したものの、製品ミックスの変化およびプロモーション費用の増加による平均販売単価の下落に加え、為替や関税影響などもあり、減収減益となりました。

2026年3月期 Q3：精機事業

単位：億円	25年3月期		26年3月期		前年比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
売上収益	434	1,249	348	1,046	▲86	▲203
営業利益	▲15	▲6	▲24	6	▲9	+12
営業利益率	▲3.8%	▲0.6%	▲7.0%	0.6%	▲3.2P	+1.2P
FPD露光装置	10台	26台	7台	22台	▲3台	▲4台
半導体露光装置 新品／中古	2/0台	6/6台	3/0台	11/1台	+1/±0台	+5/▲5台

- **前年比（Q3累計）**：売上収益は、ArF露光装置及びFPD露光装置の販売台数減少により減収。営業利益は、減収の影響はあるものの、FPD露光装置の製品ミックス変化および上期に計上したウェハ接合技術の事業譲渡益等により増益

Nikon |

- つづいて精機事業です。
- 売上収益は前年比203億円減収の1,046億円、営業利益は12億円増益の6億円となりました。
- 半導体露光装置は、主力のArF露光装置は前年から4台減少し、1台となりました。
- FPD露光装置の販売台数も前年から4台減少し、22台となりました。
- 販売台数は減少したものの、FPD露光装置の製品ミックス変化や上期に計上した事業譲渡益などにより、減収ながらも増益となりました。

2026年3月期 Q3：ヘルスケア事業

単位：億円	25年3月期		26年3月期		前年比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
売上収益	264	815	278	790	+14	▲25
営業利益	8	21	▲9	▲6	▲17	▲27
営業利益率	3.3%	2.7%	▲3.7%	▲0.9%	▲7.0P	▲3.6P

- **前年比（Q3累計）**：売上収益は、主にライフサイエンスにおける米国でのアカデミア向け販売停滞の影響により減収。営業利益は、経費抑制も、販売減や関税影響に加え、アイケア関連の一部取引に係る引当金の額を増額(14億円)したことにより減益

Nikon |

- スライド10は、ヘルスケア事業です。
- 売上収益は、主にライフサイエンスにおける米国でのアカデミア向け販売が停滞した影響により、前年比25億円減収の790億円となりました。
- 営業利益は、販売減や関税影響に加え、アイケア関連の引当金を増額したことにより、前年比27億円減益の6億円の営業損失となりました。

2026年3月期 Q3：コンポーネント事業

単位：億円	25年3月期		26年3月期		前年比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
売上収益	186	490	167	518	▲19	+28
営業利益	22	36	14	66	▲8	+30
営業利益率	11.7%	7.4%	8.2%	12.8%	▲3.5P	+5.4P

- **前年比（Q3累計）**：売上収益は、電子部品・半導体向け画像測定システムやFPDフォトマスク基板の販売増加により増収。営業利益は、増収による増益に加え、インダストリアルソリューションズ事業（旧産業機器事業）での前年一時費用の剥落や構造改革効果、製品ミックスの変化による収益性向上により増益

Nikon |

- スライド11は、コンポーネント事業です。
- 売上収益は、電子部品・半導体向け画像測定システムやFPDフォトマスク基板の販売増加により、前年比28億円増収の518億円となりました。
- 営業利益は、増収効果に加え、インダストリアルソリューションズ事業で前年に実施した構造改革一時費用の剥落や構造改革効果、製品ミックスの変化による収益性向上により、前年比30億円増益の66億円となりました。

2026年3月期 Q3：デジタルマニュファクチャリング事業

単位：億円	25年3月期		26年3月期		前年比	
	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計	Q3	Q3累計
売上収益	65	182	68	166	+3	▲16
営業利益	▲38	▲102	▲945	▲1,034	▲907	▲932
営業利益率	▲57.5%	▲55.8%	▲1,381.8%	▲620.7%	▲1,324.3P	▲564.9P

- **前年比（Q3累計）**：売上収益は、SLM社の大型金属3Dプリンターの販売台数減少により減収。 営業損失は、販売減による粗利減および経費増に加え、SLM社買収に伴うのれん・無形資産を中心に減損損失(906億円)を計上したことにより拡大

Nikon |

- スライド12は、デジタルマニュファクチャリング事業です。
- 売上収益は、SLM社の大型金属3Dプリンター、NXGシリーズの販売台数減少により、前年比16億円減収の166億円となりました。
- 営業利益は、販売減や経費増に加え、SLM社買収に伴うのれん・無形資産を中心に906億円の減損損失を計上したことにより、赤字幅が1,034億円に拡大しました。

1. 経営状況報告
2. 2026年3月期 第3四半期決算報告
3. 2026年3月期 通期見通し

Nikon |

- 続いて、通期業績見通しをご説明します。

2026年3月期 通期見通し：ポイント

売上収益

- **全社見通し 6,750億円** （前回予想から50億円下方修正）

- 主にヘルスケア事業やデジタルマニュファクチャリング事業での販売計画引き下げにより下方修正

営業利益

- **全社見通し ▲1,000億円** （前回予想から1,140億円下方修正）

- 映像事業：Q3販売実績を踏まえ、110億円下方修正

- 精機事業：Q4に棚卸資産評価損の計上を見込み、40億円下方修正

- ヘルスケア事業：引当金増額に加え、販売計画を見直した結果、25億円下方修正

- デジタルマニュファクチャリング事業：非金融資産の減損損失の計上に加え、販売計画を見直した結果、940億円下方修正

- その他（含む全社費用）：遊休資産売却に伴う費用増加等を見込み、25億円下方修正

- 通期の関税影響は70億円を見込む（前回予想から5億円縮小）

当期利益*

- **全社見通し ▲850億円** （前回予想から1,050億円下方修正）

株主還元

- **期末配当金15円、年間配当金40円** （前回予想から10円下方修正）

為替前提

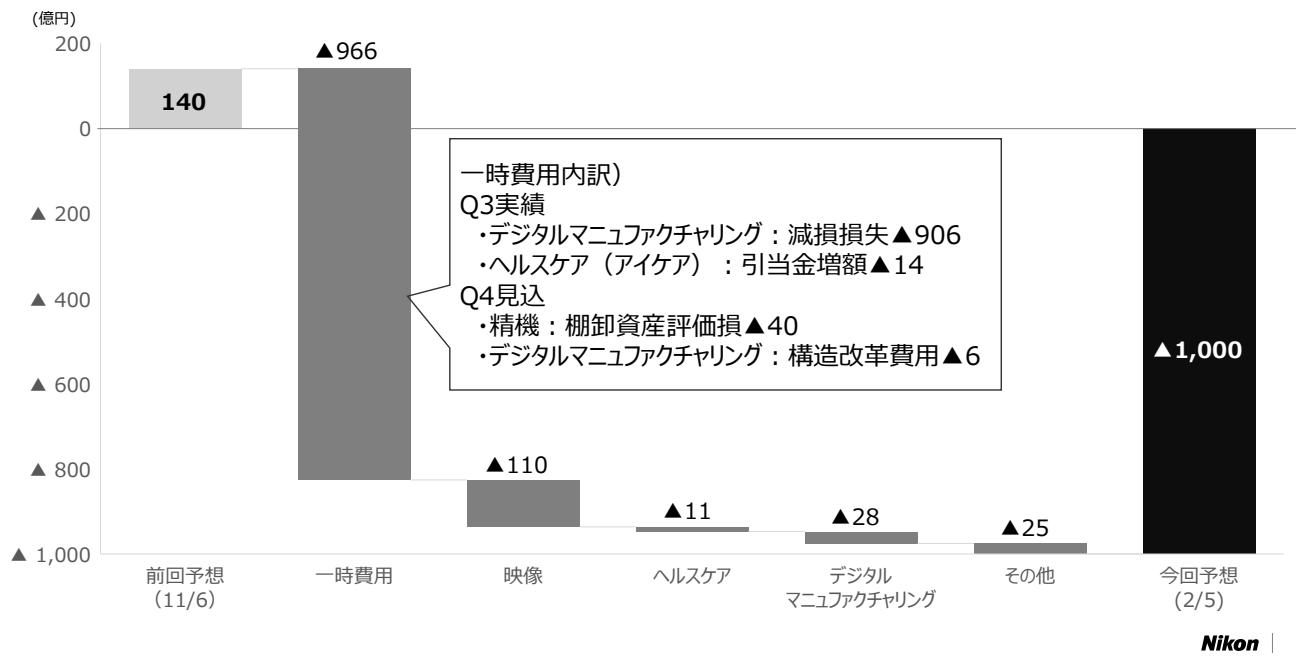
- **USドル 149円、ユーロ 173円** (Q4は、USドル 150円、ユーロ 175円)

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

Nikon |

- 売上収益は、主にヘルスケア事業とデジタルマニュファクチャリング事業の販売計画引き下げにより、前回予想から50億円下方修正の6,750億円とします。
- 営業利益は、コンポーネント事業を除く各事業セグメントの見通しを引き下げ、前回予想から1,140億円下方修正の1,000億円の営業損失とします。
- なお、営業利益への関税影響は、前回予想から5億円縮小し、マイナス70億円を見込みます。
- 当期損失は、850億円とします。
- 配当金は、遺憾ながら期末配当を10円引き下げ、年間40円とさせて頂く予定です。
- なお、第4四半期の為替レートの想定は、ドル・ユーロ共に5円円安に見直し、ドルは150円、ユーロは175円とします。

前回予想（11/6）からの営業利益の変動要因



- スライド15に、前回予想からの営業利益の変動を要因別にお示ししています。
- 前回予想から1,140億円下方修正のうち、966億円は減損や評価損を中心とした一時費用によるものです。内訳はご覧の通りです。

2026年3月期 通期見通し：財務ハイライト

単位：億円	25年3月期 実績	前回予想 (11/6)	今回予想 (2/5)	前年比	前回予想比
売上収益	7,152	6,800	6,750	▲402	▲50
営業利益 営業利益率	24 0.3%	140 2.1%	▲1,000 ▲14.8%	▲1,024 ▲15.1P	▲1,140 ▲16.9P
税引前利益 税引前利益率	45 0.6%	160 2.4%	▲980 ▲14.5%	▲1,025 ▲15.1P	▲1,140 ▲16.9P
当期利益* 当期利益率	61 0.9%	200 2.9%	▲850 ▲12.6%	▲911 ▲13.5P	▲1,050 ▲15.5P
ROE	0.9%	3.1%	▲14.1%	▲15.0P	▲17.2P
EPS	17.86円	60.78円	▲258.29円	▲276.15円	▲319.07円
年間配当	50円	50円	40円	▲10円	▲10円
為替：USドル	153円	146円	149円	売上収益への予想影響 ▲3	+116
ユーロ	164円	169円	173円	営業利益への予想影響 ▲111	▲30

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

注：予想EPSの前提となる発行済株式数：前回予想約329.0百万株、今回予想約329.0百万株

Nikon |

- スライド16をご覧ください。
- 通期の業績予想の主要計数を、前年比、前回予想比を含めて、一覧表でお示しています。
- 概要はすでにご説明した通りです。

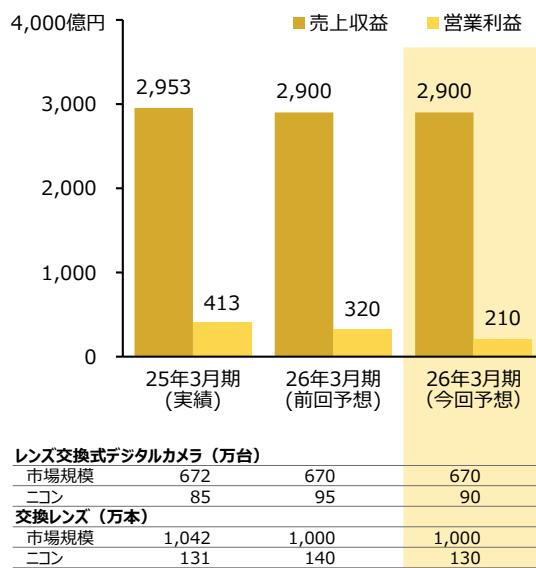
2026年3月期 通期見通し：セグメント別見通し

単位：億円	25年3月期実績		前回予想（11/6）	今回予想（2/5）	前年比	前回予想比
映像事業	売上収益	2,953	2,900	2,900	▲53	-
	営業利益	413	320	210	▲203	▲110
	営業利益率	14.0%	11.0%	7.2%	▲6.8P	▲3.8P
精機事業	売上収益	2,019	1,630	1,650	▲369	+20
	営業利益	15	50	10	▲5	▲40
	営業利益率	0.8%	3.1%	0.6%	▲0.2P	▲2.5P
ヘルスケア事業	売上収益	1,164	1,140	1,120	▲44	▲20
	営業利益	67	50	25	▲42	▲25
	営業利益率	5.8%	4.4%	2.2%	▲3.6P	▲2.2P
コンポーネント事業	売上収益	741	790	790	+49	-
	営業利益	71	100	100	+29	-
	営業利益率	9.7%	12.7%	12.7%	+3.0P	-
デジタル マニュファクチャリング事業	売上収益	233	300	250	+17	▲50
	営業利益	▲152	▲110	▲1,050	▲898	▲940
	営業利益率	▲65.2%	▲36.7%	▲420.0%	▲354.8P	▲383.3P
その他 (含、全社費用等)	売上収益	40	40	40	-	-
	営業利益	▲391	▲270	▲295	+96	▲25
連結	売上収益	7,152	6,800	6,750	▲402	▲50
	営業利益	24	140	▲1,000	▲1,024	▲1,140
	営業利益率	0.3%	2.1%	▲14.8%	▲15.1P	▲16.9P

Nikon |

- スライド17では、セグメント別の通期予想の一覧を、前年比、前回予想比とともにお示ししています。詳細は、セグメントごとにご説明します。

2026年3月期 通期見通し：映像事業



・前回予想比：売上収益 ±0 億円、営業利益 ▲110億円

・前年比：売上収益 ▲53億円、営業利益 ▲203億円

【前回予想比】

- レンズ交換式デジタルカメラ市場は中長期的には堅調に推移すると見込むも、足元では製品ミックスの下方シフトに加え、関税による値上げの影響や一部成長市場での一服感が見られる

- Q3実績を踏まえ販売台数を引き下げるものの、為替効果により売上収益は据え置き

- 営業利益は、販売台数の引き下げや競争環境の激化に伴うプロモーション費用の増加などにより110億円下方修正

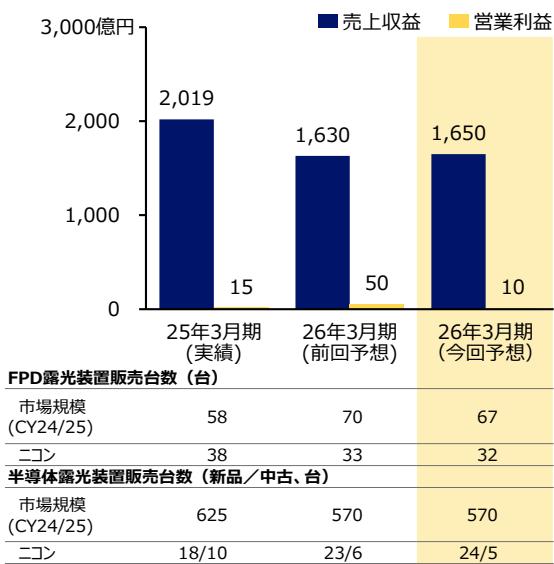
【前年比】

- RED社の技術を融合した初のデジタルシネマカメラ「ZR」やボリュームゾーンの「Z5II」「Z50II」などを中心に販売数量の増加を見込むものの、製品ミックスの変化および競争環境の激化に伴うプロモーション費用の増加による平均販売単価の下落に加え、為替や関税影響等により減収減益

Nikon |

- まず、映像事業です。
- レンズ交換式デジタルカメラ市場は中長期的には堅調に推移すると見込んでいますが、足元では製品ミックスの下方シフトに加え、関税による値上げの影響や一部成長市場での一服感が見られます。
- 第3四半期の販売台数が計画を下振れたことを踏まえ、通期の販売計画をレンズ交換式カメラで5万台、交換レンズで10万本引き下げるが、為替想定を円安に見直したため、売上収益は2,900億円を据え置きます。
- 営業利益は、販売台数の引き下げやプロモーション費用の増加などにより、前回予想から110億円下方修正し、210億円とします。
- 前年比では、販売数量の増加を見込むものの、製品ミックスの変化やプロモーション費用の増加による平均販売単価の下落に加え、為替や関税影響等により減収減益の見込みです。

2026年3月期 通期見通し：精機事業



- 前回予想比：売上収益 +20億円、営業利益 ▲40億円

- 前年比：売上収益 ▲369億円、営業利益 ▲5億円

【前回予想比】

- 売上収益は、FPD露光装置の繰延もArF露光装置の前倒しにより20億円上方修正
- 営業利益は、Q4に棚卸資産の評価損計上を見込み40億円下方修正

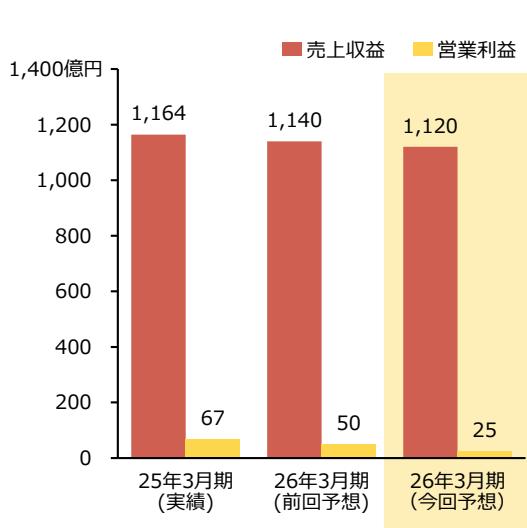
【前年比】

- 売上収益は、FPD露光装置及びArF露光装置の販売台数減少やサービス収入の減少により減収
- 営業利益は、半導体装置事業の前年一時費用の剥落や構造改革効果があるものの、ArF露光装置の販売台数減少により減益
- 半導体装置事業では、今後の顧客の動向を見極めるとともに、生産・サポート体制の最適化を引き続き進め、損益分岐点を引き下げ、来期増益を目指す

Nikon |

- スライド19は、精機事業です。
- 資料左下をご覧ください。FPD露光装置の販売台数は、顧客都合により1台の据え付け完了が来期へずれ込む一方、新品ArF露光装置1台が今期に前倒しとなる見込みです。
- これらの販売台数の変更を反映し、売上収益は前回予想から20億円上方修正し、1,650億円とします。
- 営業利益は、第4四半期に半導体装置事業での棚卸資産の評価損計上を見込み、前回予想から40億円下方修正し、10億円とします。
- 前年比では、FPD露光装置とArF露光装置の販売台数減少などにより、減収減益の見込みです。
- 半導体装置事業では、今後も顧客の動向を見極めつつ、生産・サポート体制の最適化を進め、損益分岐点を引き下げることで来期の増益を目指します。

2026年3月期 通期見通し：ヘルスケア事業



・前回予想比：売上収益 ▲20億円、営業利益 ▲25億円

・前年比：売上収益 ▲44億円、営業利益 ▲42億円

【前回予想比】

- 主にライフサイエンスにおける米国でのアカデミア向け販売停滞の影響により、売上収益を20億円下方修正
- 経費抑制を進めるものの、ライフサイエンスの販売下振れやアイケアの引当金増額(14億円)により、営業利益を25億円下方修正

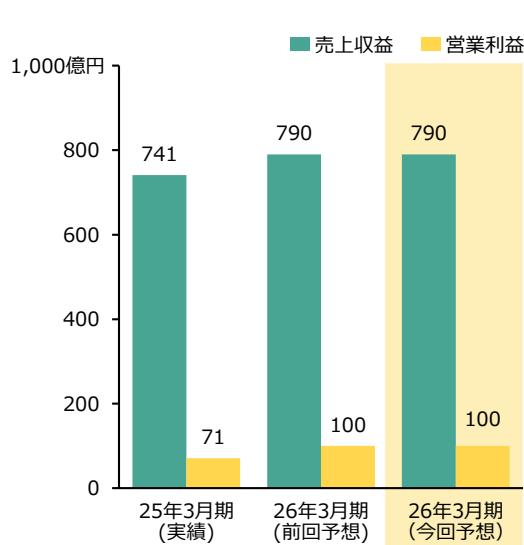
【前年比】

- ライフサイエンスは、主力の米国市場の停滞により減収。収益性改善を目指し高付加価値製品の拡販を継続する
- アイケアは、中国での販売低迷が懸念されるものの、欧米を中心に新製品の拡販を進め、通期では前年並みの売上収益を目指す
- 細胞受託生産は、来期以降の収益拡大を目指し、増産投資を進行中
- 事業全体の売上は、ライフサイエンスの米国における販売減等により減収。営業利益は、関税影響や引当金増額もあり減益を見込む

Nikon |

- スライド20は、ヘルスケア事業です。
- 売上収益は、主にライフサイエンスにおける米国でのアカデミア向け販売停滞の影響により、前回予想から20億円下方修正し、1,120億円とします。
- 営業利益は、ライフサイエンスの販売下振れに加え、アイケア関連の引当金を増額したことにより、前回予想から25億円下方修正し、25億円とします。
- ライフサイエンスは、高付加価値製品の拡販を継続するものの、主力の米国市場が停滞する見込みです。
- アイケアは、中国での販売低迷が懸念されるものの、欧米を中心に新製品の拡販を進めます。
- 細胞受託生産は、来期以降の収益拡大を目指し、増産投資を進行中です。
- 前年比では、事業全体としては、ライフサイエンスの米国における販売減等により減収、関税影響や引当金増額もあり減益となる見込みです。

2026年3月期 通期見通し：コンポーネント事業



・前回予想据え置き

- ・前年比：売上収益 +49億円、営業利益 +29億円

【前回予想比】

- EUV関連コンポーネントの下振れを他事業の上振れ及び経費削減により補い、据え置き

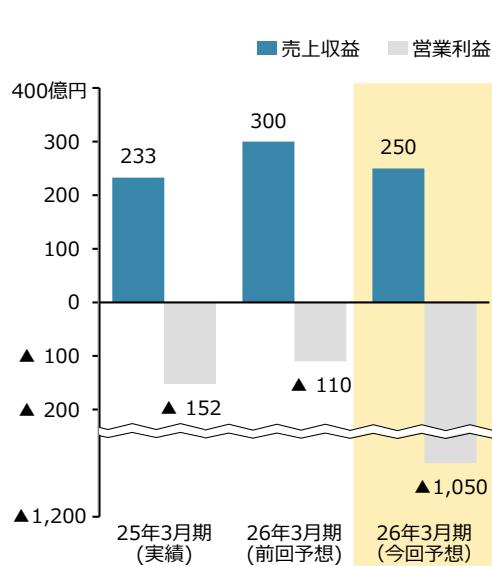
【前年比】

- 光学部品・光学コンポーネントは顧客拡大を継続的に進め、下期の市況回復による販売増加を見込む
- 測定機器分野では、画像測定システムが好調に推移
- FPDフォトマスク基板は、高精細パネル向けの需要増加を見込む
- 増収効果に加え、前年発生したインダストリアルソリューションズ事業（旧産業機器事業）での構造改革一時費用(18億円)の剥落と構造改革による収益性向上により、増益を見込む

Nikon |

- スライド21は、コンポーネント事業です。
- EUV関連コンポーネントの下振れを他事業の上振れや経費削減で相殺し、売上収益790億円、営業利益100億円の前回予想を据え置きます。
- 光学部品・光学コンポーネントは顧客拡大を継続的に進め、下期の市況回復による販売増加を見込みます。
- 測定機器分野では、画像測定システムが好調に推移しています。
- FPDフォトマスク基板は、高精細パネル向けの需要増加を見込みます。
- 前年比では、事業全体としては、増収効果に加え、前年に実施した構造改革一時費用の剥落と収益性向上により、増益を見込みます。

2026年3月期 通期見通し：デジタルマニュファクチャリング事業



● 前回予想比：売上収益 ▲50億円、営業利益 ▲940億円

● 前年比：売上収益 +17億円、営業利益 ▲898億円

【前回予想比】

- SLM社の大型金属3Dプリンターの販売繰延等により、売上収益を50億円下方修正
- 営業利益は、販売減に加え、減損損失(906億円)および事業スリム化に伴う構造改革費用(6億円)により、940億円下方修正

【前年比】

- 競争環境が激化する中、金属3Dプリンター市場全体は横ばいの見通し
- 一方で、防衛・宇宙領域を中心に大型金属3Dプリンター市場の需要拡大を見込む
- 生産体制の最適化や経費抑制、研究開発の優先順位の明確化に加え、事業全体のスリム化を進め、損益分岐点を引き下げる

注：26年3月期のSLM社買収に伴う無形資産償却費用見込額：前回予想約40億円、今回予想約31億円

Nikon |

- スライド22は、デジタルマニュファクチャリング事業です。
- 売上収益は、SLM社の大型金属3Dプリンター、NXGシリーズの販売繰延などにより、前回予想から50億円下方修正し、250億円とします。
- 営業利益は、販売繰り延べに加え、第3四半期に計上した減損損失や第4四半期に見込む構造改革費用により、前回予想から940億円下方修正し、1,050億円の赤字を見込みます。
- デジタルマニュファクチャリング事業の現状と今後の方針については、次のスライドでご説明します。

デジタルマニュファクチャリング事業：現状と今後の方針

現状

- 金属AM*普及率は、**防衛・宇宙市場では想定通り**だが、自動車市場等では想定より鈍化。
業界全体の**成長率は低下**
- **中国メーカーが台頭し、中国・東南アジア中心に一般産業市場でシェア獲得。**大手競合も好調で、**防衛・宇宙市場でも競争激化**
- ⇒ 将来計画を全面的に見直した結果、のれん等の非金融資産を対象に**906億円の減損損失**を計上

(単位：億円)	減損損失の内訳		
	対象資産	減損金額	減損後残存簿価
Nikon SLM Solutions AG	のれん	▲605	-
	無形資産	▲262	32
ニコン単体及び その他グループ会社	有形・無形固定資産	▲38	
事業全体		▲906	

SLM社買収に伴う無形資産償却費は来期より約5億円に減少の見込み

今後の方針

- **構造改革**を実施し、**損益分岐点を引き下げ**（組織のスリム化・費用削減等）
- R&Dについては、DED装置*の開発費用を絞り込み、**PBF装置***に注力
- 米国・欧州等の**防衛・宇宙市場**を中心に**中長期的な成長**を目指す

* 金属AM：金属3Dプリンターを用いたAdditive Manufacturing（付加加工）

* DED装置：ニコンで製造するDirected Energy Deposition方式の金属3Dプリンター

* PBF装置：SLM社で製造するPowder Bed Fusion方式の金属3Dプリンター

Nikon |

- 防衛・宇宙市場では金属3Dプリンターの普及率が想定通りに進む一方、自動車市場などでは想定を下回っており、業界全体の成長率が低下しています。
- また、一般産業市場での中国メーカーの台頭や防衛・宇宙市場での競争環境の激化なども踏まえ、当該事業全体の将来計画を全面的に見直した結果、第3四半期決算において、のれん・無形資産を中心に906億円の減損損失を計上しました。
- これにより、来期以降のSLM社買収に伴う無形資産償却費は年間で約35億円軽減され、約5億円になる見込みです。
- 第4四半期以降に実施予定の構造改革により損益分岐点を引き下げると共に、研究開発投資はSLM社のPBF装置に注力することで、米国・欧州等の防衛・宇宙市場を中心に中長期的な成長を目指します。

クロージング

ご説明は以上ですが、

- 第3四半期決算は、デジタルマニュファクチャリング事業で大きな減損損失を計上したことにより、大幅な営業赤字となりました。
- 通期の見通しも、減損や評価損などの一時費用を見込むため、大幅な利益下方修正、最終損失、配当予想引き下げを見込んでおります。
- 株主の皆さまのご期待に添えない状況にあり、誠に申し訳なく感じております。
- 現在策定中の次期中期経営計画では、今期をボトムとして、次の成長に繋げてまいりたいと考えています。
- 引き続き、皆さまのご理解・ご支援をよろしくお願い申し上げます。
- ご清聴ありがとうございました。

參考資料

ニコンの事業セグメントと主な製品

事業セグメント	主な事業、製品	製品例			
映像事業	レンズ交換式デジタルカメラ 交換レンズ デジタルシネマカメラ				
精機事業	FPD露光装置 半導体露光装置 アライメントステーション 計測・検査装置				
ヘルスケア事業	生物顕微鏡 (ライフサイエンス) 網膜画像診断機器 (アイケア) 細胞受託生産				
コンポーネント事業	EUV関連コンポーネント 光学部品、光学コンポーネント エンコーダ、測定・検査システム FPDフォトマスク基板				
デジタル マニュファクチャリング事業	金属3Dプリンター 光加工機 3Dスキャナー 材料加工受託				

Nikon |

2025年3月期：セグメント別一時費用一覧

単位：億円	25年3月期					
	Q1	Q2	Q3	Q4	通期	内容
映像事業	▲5	-	-	▲14	▲19	Q1：RED社買収関連費用▲5 Q4：MRMC社*固定資産減損損失▲8、 特許関連費用▲6
精機事業	-	-	-	▲141	▲141	固定資産減損損失▲78、棚卸資産評価損▲50、 構造改革（サービス拠点最適化）▲12
ヘルスケア事業	▲5	▲4	▲4	▲7	▲20	アイケア調査費用など
コンポーネント事業	-	-	▲8	▲10	▲18	構造改革（旧産業機器事業の組織最適化）▲18
デジタル マニュファクチャリング事業	-	-	-	-	-	-
その他 (含、全社費用等)	-	▲51	▲13	▲7	▲71	Q2：本社移転関連費用 Q3・Q4：構造改革（拠点再編）▲18など
連結	▲10	▲55	▲26	▲181	▲272	

一時費用の内、構造改革関連費用は合計49億円

* Mark Roberts Motion Control社：2016年に買収。主な事業内容は、映像機器のロボット制御ソリューションに関する装置の開発、製造、販売及びレンタル

Nikon |

2026年3月期：セグメント別一時損益一覧

単位：億円	26年3月期			内容
	Q1	Q2	Q3	
映像事業	-	-	-	
精機事業	-	+21	-	事業譲渡益+29及び構造改革（サービス拠点最適化）▲8
ヘルスケア事業	▲5	▲4	▲18	Q1-Q3:アイケア調査費用など Q3:アイケア引当金▲14
コンポーネント事業	-	-	-	
デジタル マニュファクチャリング事業	-	-	▲906	非金融資産の減損損失
その他 (含、全社費用等)	▲6	▲5	▲1	拠点再編に伴う費用
連結	▲11	+11	▲925	

Nikon |

2026年3月期 Q3：財務ハイライト

単位：億円	25年3月期 Q3実績	26年3月期 Q3実績	前年比	
			増減額	増減率
売上収益	1,799	1,710	▲89	▲4.9%
営業利益	23	▲988	▲1,011	-
営業利益率	1.3%	▲57.8%	▲59.1P	-
税引前利益	64	▲966	▲1,030	-
税引前利益率	3.6%	▲56.5%	▲60.1P	-
当期利益*	33	▲925	▲958	-
当期利益率	1.8%	▲54.1%	▲55.9P	-
FCF	▲112	▲198	▲86	-
為替：USドル	152円	154円	売上収益への影響 +46	
ユーロ	163円	179円	営業利益への影響 ▲89	

* 親会社の所有者に帰属する四半期利益

Nikon |

2026年3月期 Q3：セグメント別実績

単位：億円	25年3月期 Q3実績	26年3月期 Q3実績	前年比	
			増減額	増減率
映像事業	売上収益 150	839 58	+1 ▲92	+0.2% ▲61.3%
	営業利益 17.9%	6.9%	▲11.0P	
	営業利益率			
精機事業	売上収益 ▲15	434 ▲24	▲86 ▲9	▲20.0% -
	営業利益 ▲3.8%	6.9%	▲3.2P	
	営業利益率			
ヘルスケア事業	売上収益 8	264 ▲9	+14 ▲17	+5.1% -
	営業利益 3.3%	▲3.7%	▲7.0P	
	営業利益率			
コンポーネント事業	売上収益 22	186 14	▲19 ▲8	▲10.3% ▲37.0%
	営業利益 11.7%	8.2%	▲3.5P	
	営業利益率			
デジタル マニュファクチャリング事業	売上収益 ▲38	65 ▲945	+3 ▲907	+4.6% -
	営業利益 ▲57.5%	▲1,381.8%	▲1,324.3P	
	営業利益率			
その他（含、全社費用等）	売上収益 ▲103	11 ▲81	▲2 +22	▲12.2% -
	営業利益 1.3%	9		
	営業利益率			
連結	売上収益 23	1,799 ▲988	▲89 ▲1,011	▲4.9% -
	営業利益 1.3%	▲57.8%	▲59.1P	
	営業利益率			

Nikon |

2026年3月期 通期見通し：財務ハイライト

単位：億円	23年3月期	24年3月期	25年3月期			26年3月期 見通し		
	通期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上収益	6,281	7,172	3,327	3,825	7,152	3,129	3,621	6,750
営業利益	549	397	58	▲34	24	▲48	▲952	▲1,000
営業利益率	8.7%	5.5%	1.7%	▲0.9%	0.3%	▲1.5%	▲26.3%	▲14.8%
税引前利益	570	426	44	1	45	▲52	▲928	▲980
税引前利益率	9.1%	5.9%	1.3%	0.0%	0.6%	▲1.7%	▲25.6%	▲14.5%
当期利益*	449	325	29	32	61	53	▲903	▲850
当期利益率	7.2%	4.5%	0.9%	0.8%	0.9%	1.7%	▲24.9%	▲12.6%
FCF	▲1,121	▲106	▲217			-		
ROE	7.4%	5.0%	0.9%			▲14.1%		
EPS	125.46円	94.03円	17.86円			▲258.29円		
年間配当	45円	50円	50円			40円		
為替：USドル	135円	145円	153円	152円	153円	146円	152円	149円
ユーロ	141円	157円	166円	162円	164円	168円	177円	173円

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

注：予想EPSの前提となる発行済株式数：約329.0百万株

Nikon |

2026年3月期 通期見通し：財務ハイライト

単位：億円	25年3月期			26年3月期 見通し			前年比		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上収益	3,327	3,825	7,152	3,129	3,621	6,750	▲198	▲204	▲402
営業利益	58	▲34	24	▲48	▲952	▲1,000	▲106	▲918	▲1,024
営業利益率	1.7%	▲0.9%	0.3%	▲1.5%	▲26.3%	▲14.8%	▲3.2P	▲25.4P	▲15.1P
税引前利益	44	1	45	▲52	▲928	▲980	▲96	▲929	▲1,025
税引前利益率	1.3%	0.0%	0.6%	▲1.7%	▲25.6%	▲14.5%	▲3.0P	▲25.6P	▲15.1P
当期利益*	29	32	61	53	▲903	▲850	+24	▲935	▲911
当期利益率	0.9%	0.8%	0.9%	1.7%	▲24.9%	▲12.6%	+0.8P	▲25.7P	▲13.5P
ROE	0.9%			▲14.1%			▲15.0P		
EPS	17.86円			▲258.29円			▲276.15円		
年間配当	50円			40円			▲10円		
為替：USドル	153円	152円	153円	146円	152円	149円	▲7円	±0円	▲4円
ユーロ	166円	162円	164円	168円	177円	173円	+2円	+15円	+9円

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

注：予想EPSの前提となる発行済株式数：約329.0百万株

Nikon |

2026年3月期 通期見通し：セグメント別見通し

単位：億円	25年3月期			26年3月期 見通し			前年比			
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	
映像事業	売上収益 288	1,517 125	2,953 413	1,450 151	1,436 59	2,900 210	▲67 ▲137	+14 ▲66	▲53 ▲203	
精機事業	売上収益 9	815 1,204	2,019 15	698 30	952 ▲20	1,650 10	▲117 +21	▲252 ▲26	▲369 ▲5	
ヘルスケア事業	売上収益 13	551 613	1,164 67	512 3	608 22	1,120 25	▲39 ▲10	▲5 ▲32	▲44 ▲42	
コンポーネント事業	売上収益 14	304 437	741	351 52	439 48	790 100	+47 +38	+2 ▲9	+49 +29	
デジタル マニュファクチャリング事業	売上収益 ▲64	117 ▲88	233 ▲152	98 ▲89	152 ▲961	250 ▲1,050	▲19 ▲25	+36 ▲873	+17 ▲898	
その他	売上収益 6	20 20	40	18 ▲5	22 15	40 10	▲2 ▲11	+2 ▲8	±0 ▲19	
全社費用等	営業利益 内、成長投資関連費用 内、本社管理部門費用 内、セグメント間消去	▲209 ▲99 ▲120 10	▲211 ▲105 ▲115 9	▲420 ▲204 ▲235 19	▲190 ▲84 ▲89 ▲17	▲115 ▲96 ▲36 17	▲305 ▲180 ▲125 0	+19 +15 +31 ▲27	+96 +9 +79 +8	+115 +24 +110 ▲19
連結	売上収益 営業利益	3,327 58	3,825 ▲34	7,152 24	3,129 ▲48	3,621 ▲952	6,750 ▲1,000	▲198 ▲106	▲204 ▲918	▲402 ▲1,024

Nikon |

2026年3月期 通期見通し：財務ハイライト（前回予想との差異）

単位：億円	前回予想（11/6）			今回予想（2/5）			前回予想比		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上収益	3,129	3,671	6,800	3,129	3,621	6,750	-	▲50	▲50
営業利益	▲48	188	140	▲48	▲952	▲1,000	-	▲1,140	▲1,140
営業利益率	▲1.5%	5.1%	2.1%	▲1.5%	▲26.3%	▲14.8%	-	▲31.4P	▲16.9P
税引前利益	▲52	212	160	▲52	▲928	▲980	-	▲1,140	▲1,140
税引前利益率	▲1.7%	5.8%	2.4%	▲1.7%	▲25.6%	▲14.5%	-	▲31.4P	▲16.9P
当期利益*	53	147	200	53	▲903	▲850	-	▲1,050	▲1,050
当期利益率	1.7%	4.0%	2.9%	1.7%	▲24.9%	▲12.6%	-	▲28.9P	▲15.5P
ROE	3.1%			▲14.1%			▲17.2P		
EPS	60.78円			▲258.29円			▲319.07円		
年間配当	50円			40円			▲10円		
為替：USドル	146円	145円	146円	146円	152円	149円	-	+7円	+3円
ユーロ	168円	170円	169円	168円	177円	173円	-	+7円	+4円

* 親会社の所有者に帰属する当期利益

注：予想EPSの前提となる発行済株式数：前回予想約329.0百万株、今回予想約329.0百万株

Nikon |

2026年3月期 通期見通し：セグメント別見通し（前回予想との差異）

単位：億円		前回予想（11/6）			今回予想（2/5）			前回予想比		
		上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
映像事業	売上収益	1,450	1,450	2,900	1,450	1,450	2,900	-	-	-
	営業利益	151	169	320	151	59	210	-	▲110	▲110
精機事業	売上収益	698	932	1,630	698	952	1,650	-	+20	+20
	営業利益	30	20	50	30	▲20	10	-	▲40	▲40
ヘルスケア事業	売上収益	512	628	1,140	512	608	1,120	-	▲20	▲20
	営業利益	3	47	50	3	22	25	-	▲25	▲25
コンポーネント事業	売上収益	351	439	790	351	439	790	-	-	-
	営業利益	52	48	100	52	48	100	-	-	-
デジタル マニュファクチャリング事業	売上収益	98	202	300	98	152	250	-	▲50	▲50
	営業利益	▲89	▲21	▲110	▲89	▲961	▲1,050	-	▲940	▲940
その他	売上収益	18	22	40	18	22	40	-	-	-
	営業利益	▲5	20	15	▲5	15	10	-	▲5	▲5
全社費用等	営業利益	▲190	▲95	▲285	▲190	▲115	▲305	-	▲20	▲20
	内、成長投資関連費用	▲84	▲96	▲180	▲84	▲96	▲180	-	-	-
	内、本社管理部門費用	▲89	▲21	▲110	▲89	▲36	▲125	-	▲15	▲15
	内、セグメント間消去	▲17	22	5	▲17	17	0	-	▲5	▲5
連結	売上収益	3,129	3,671	6,800	3,129	3,621	6,750	-	▲50	▲50
	営業利益	▲48	188	140	▲48	▲952	▲1,000	-	▲1,140	▲1,140

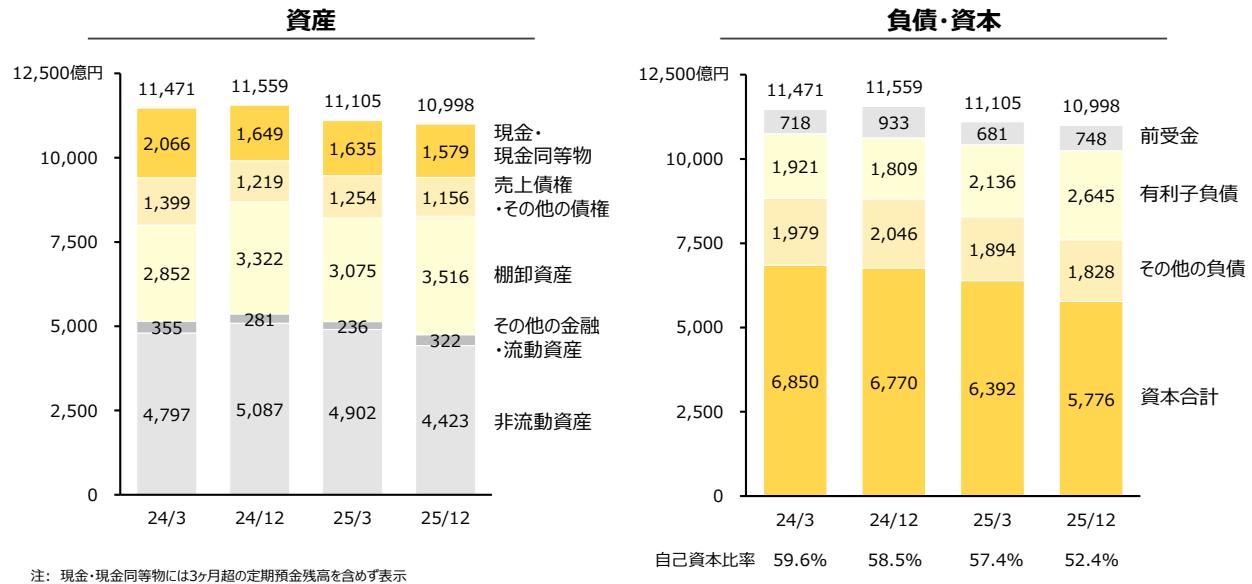
Nikon |

2026年3月期 Q3：セグメント別四半期実績

単位：億円	25年3月期				26年3月期		
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3
映像事業	売上収益 837	680	839	597	800	650	840
	営業利益 178	110	150	▲25	110	41	58
精機事業	売上収益 331	484	434	770	338	360	348
	営業利益 ▲21	30	▲15	21	18	12	▲24
ヘルスケア事業	売上収益 262	289	264	349	231	281	278
	営業利益 ▲6	19	8	46	▲18	21	▲9
コンポーネント事業	売上収益 138	166	186	251	151	200	167
	営業利益 ▲1	15	22	35	18	34	14
デジタル マニュファクチャリング事業	売上収益 59	58	65	51	50	48	68
	営業利益 ▲35	▲29	▲38	▲50	▲41	▲48	▲945
その他	売上収益 10	10	11	9	8	10	9
	営業利益 2	4	1	22	▲2	▲3	▲10
全社損益等	営業利益 ▲87	▲122	▲105	▲106	▲96	▲94	▲71
	内、成長投資関連費用 ▲49	▲50	▲51	▲54	▲41	▲43	▲42
	内、本社管理部門費用 ▲37	▲83	▲60	▲55	▲40	▲49	▲41
	内、セグメント間消去 ▲0	10	7	2	▲14	▲3	13
連結	売上収益 1,638	1,689	1,799	2,026	1,581	1,548	1,710
	営業利益 29	29	23	▲57	▲11	▲37	▲988

Nikon |

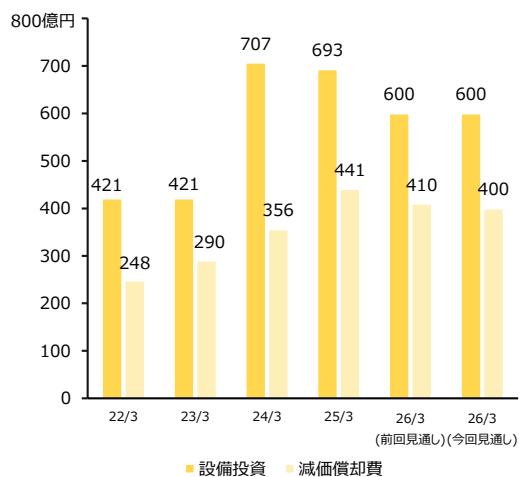
2026年3月期 Q3：財政状態計算書



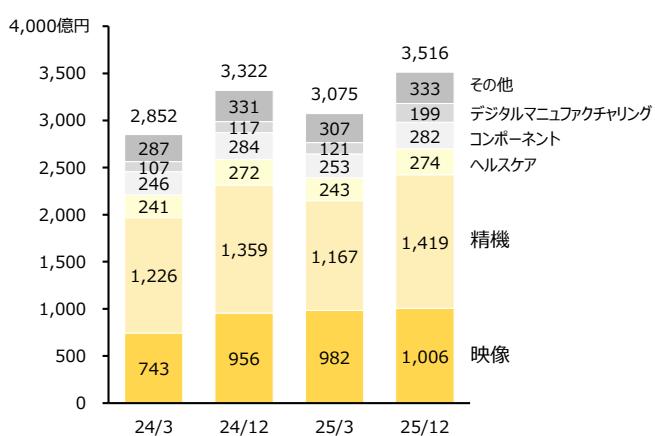
Nikon |

設備投資・減価償却費・棚卸資産

設備投資・減価償却費



棚卸資産



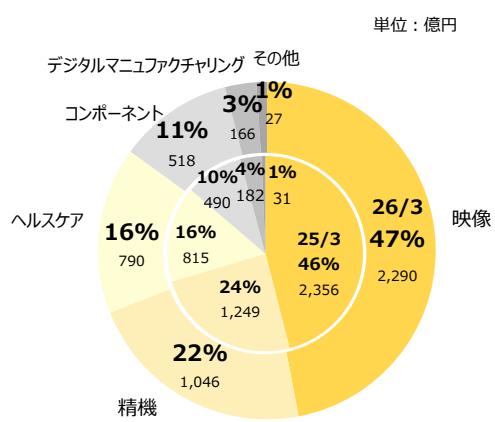
注:「設備投資」 使用権資産を含む

注:「減価償却費」 使用権資産、企業結合により取得した有形固定資産の減価償却費や無形資産の償却費を含む

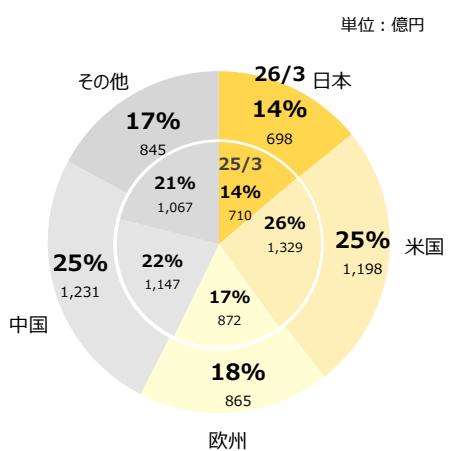
Nikon |

2026年3月期 Q3累計：売上収益内訳

セグメント別内訳



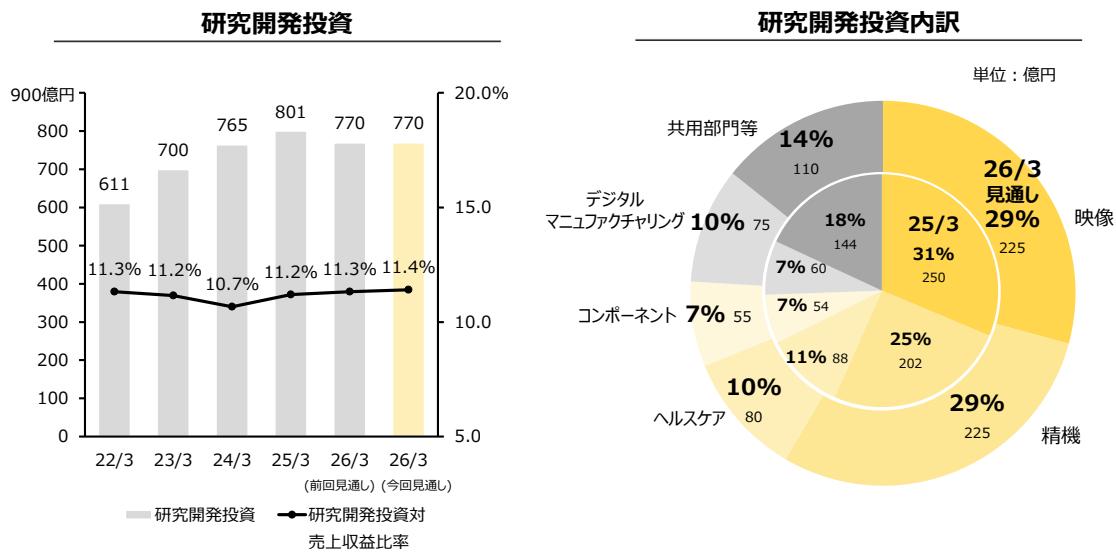
地域別内訳



注: 外円は「26年3月期 Q3累計売上収益4,839億円」の内訳、内円は「25年3月期 Q3累計売上収益5,126億円」の内訳を表示

Nikon |

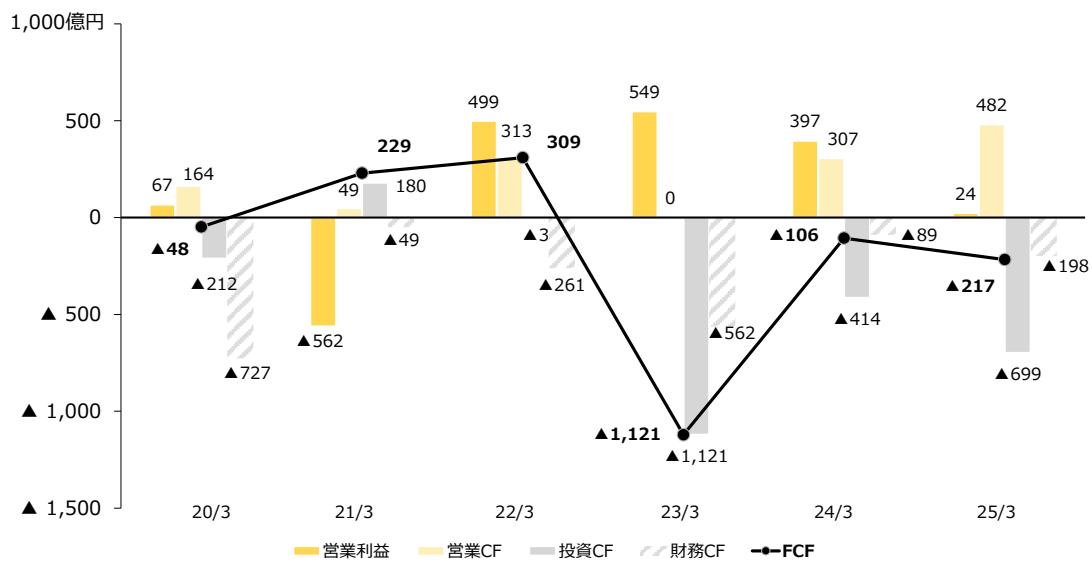
2026年3月期 通期見通し：研究開発投資



注：「研究開発投資」 資産化された開発投資を含む

Nikon |

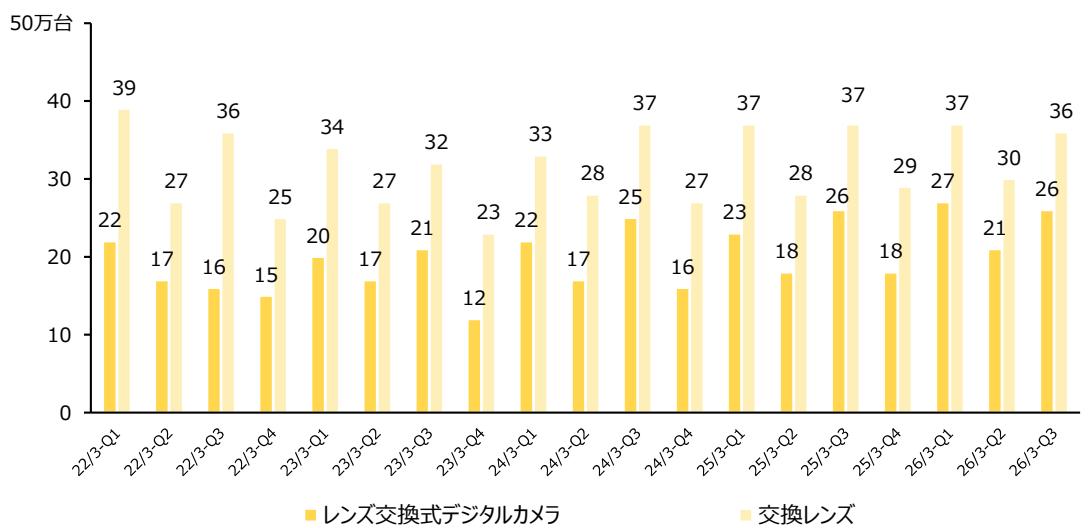
キャッシュフロー推移



Nikon |

映像事業 販売台数

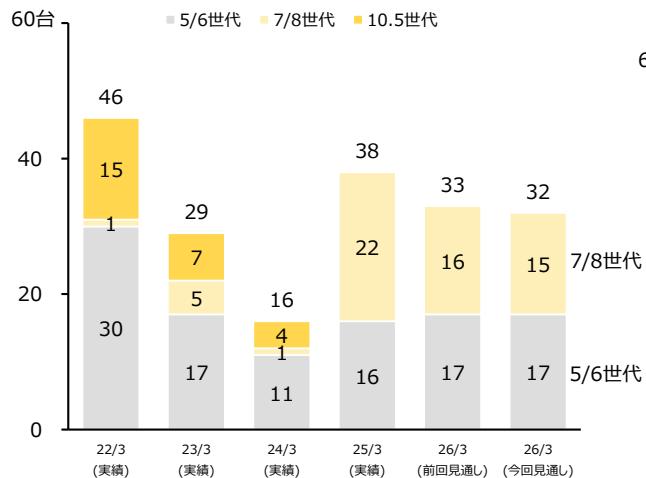
製品カテゴリー別内訳



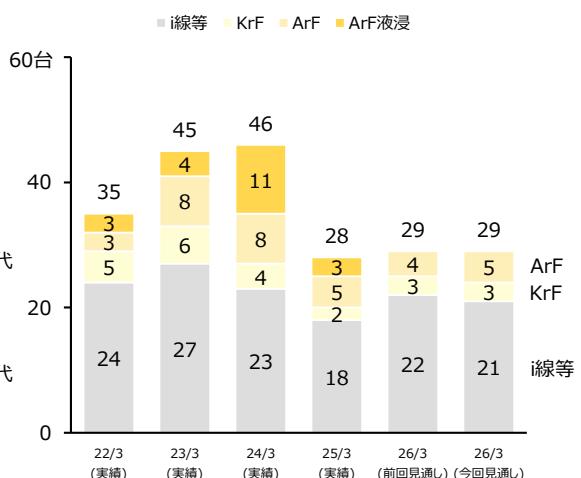
Nikon |

2026年3月期 通期見通し：精機事業 販売台数

FPD露光装置世代別内訳



半導体露光装置光源別内訳
(中古含む)



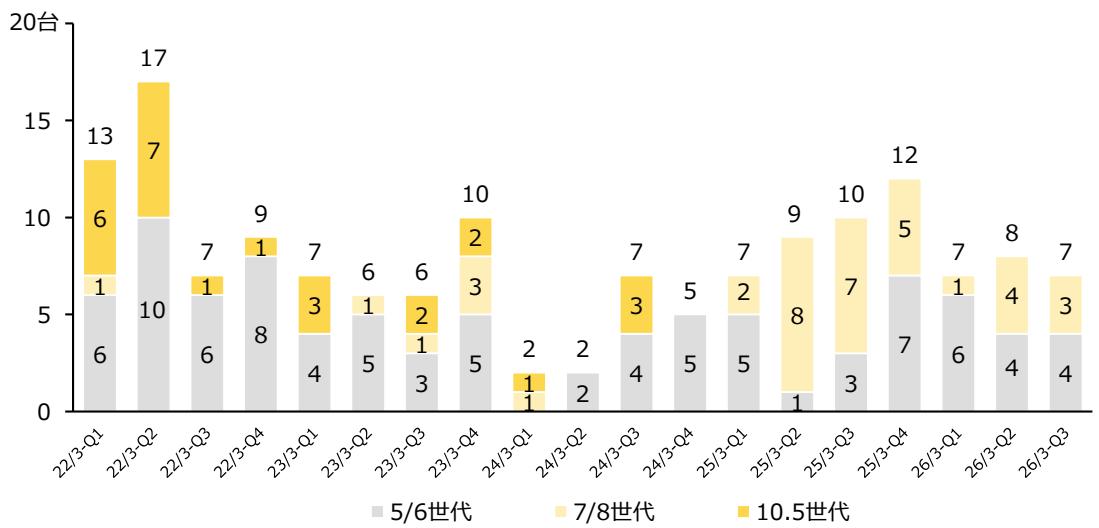
注：半導体露光装置台数の「i線等」には、i線を含む非微細化領域の露光装置（ミニステッパー）を含む

注：半導体露光装置の新品の台数は、22年3月期は17台、23年3月期は27台、24年3月期は31台、25年3月期は18台、26年3月期は24台（予定）

Nikon |

精機事業 販売台数

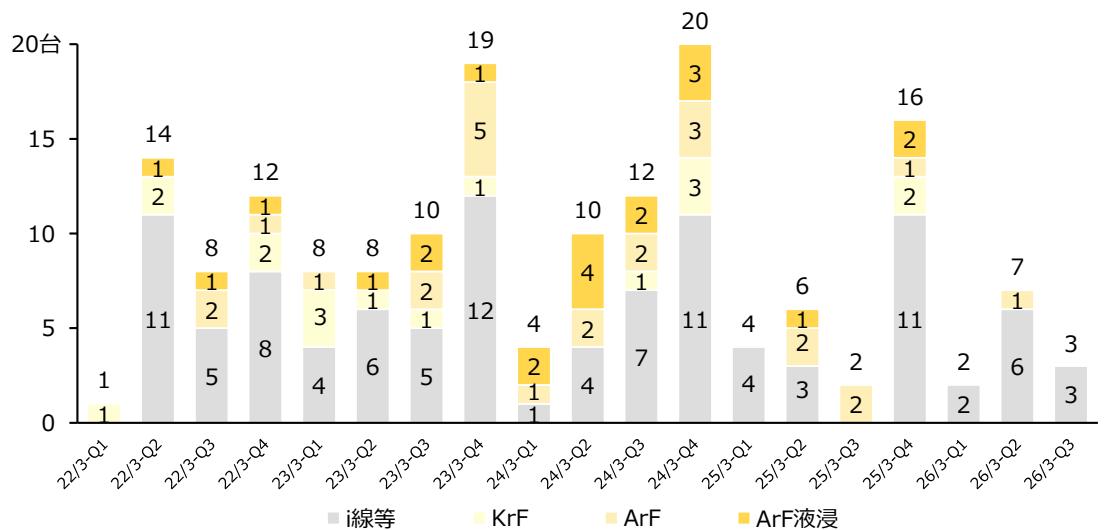
FPD露光装置世代別内訳



Nikon |

精機事業 販売台数

半導体露光装置光源別内訳（中古含む）



注：半導体露光装置台数の「i線等」には、i線を含む非微細化領域の露光装置（ミニステッパー）を含む

Nikon |

2026年3月期 通期見通し：為替の影響

為替レート	1円の変動による影響額	
	売上収益 Q4	営業利益 Q4
USドル	150円	約6億円
ユーロ	175円	約2億円

注： 上記は新興国通貨がUSドル、ユーロに運動することを想定

Nikon |

将来予想に関する記述

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現在における入手可能な情報に基づき当社が判断した内容であり、潜在的リスクおよび不確実性が含まれます。このため、今後様々な要因の変化によって、実際の業績は記述されている内容と大きく異なる場合があることをご承知ください

